



太陽と大のなかよし戸沢の子

「粘り強く、しなやかに」



校長 村田 紳

新年がスタートして約一ヶ月が経ちました。熊騒動では、保護者の皆様に児童の登下校の送迎にご協力いただき、本当にありがとうございます。また、保護者の皆様から学校評価について回答いただき、重ねて御礼申し上げます。いただいた回答は、集約し、学校評議員の方にも見ていただき、保護者の皆様にご報告したところです。保護者評価、児童評価ともに、アンケートから分かった戸沢の教育の重点は「自らあいさつすること」「メディアに接する時間」の二つと考えられます。

「自らあいさつすること」これは、コロナ禍後に特に問題視されてきたところです。感染防止のためにマスク着用が必須になり、飛沫感染予防のため、「話さないこと」が必然となった約4年間。当然、あいさつすることについても「コロナが流行っているからしょうがないよね。」と社会全体がそのような風潮でした。その後、コロナが五類に分類され、マスク着用も必要なくなった時、「元の日常に戻す」ことが求められました。ただ、「コロナ4年間の日常」を一気に転換することは難しいと言わざるを得ません。4年かけて変わったことは、4年かけて元に戻す。それくらいの長期的な見通しが必要になります。また、「あいさつ」の意味についても指導します。「発話」することの第一歩であり、人とコミュニケーションを図る上で、「自らあいさつする」ことはとても大切なことです。これからも職員、児童会ともに「あいさつ運動」に取り組んでいきます。遅く、重い歩みかもしれませんが、粘り強く、あきらめずに取り組んでいきます。ご家庭でも声掛けや励ましをしていただけたらと思います。また、「メディア時間」については、SNS やゲーム等、接する時間が多いことも本校の特徴です。PTA 研修会でも話題になった「約束」について、学校、家庭が同じ方向で指導していけたらと考えています。

1月の校長講話では、発明王エジソンの電球の発明を話題に「粘り強く取り組むことの大切さ」を話しました。最初に電球を発明したのは、ジョセフ・スワンという人です。ところが電球の発明というとエジソンの名前が挙がるのは何故でしょう。それは、点灯時間にあります。スワンの電球は約40時間しか点灯できなかったのに比べ、エジソンの電球は約1000時間点灯に耐えうるものでした。

エジソンは、この電球実験を約1万回繰り返したとのこと。記者から「1万回失敗したのですよね。」と問われたエジソンは、「この方法では電球は光らない、という発見を1万回したのだ。」と答えたそうです。うまくいかないことが失敗ではなく、成功の途中なんだ、と捉えられるよう「しなやかな心」を育んでいきたいと考えています。



1月の活動から

◇書き初め会 1月9日 の様子から◇

